

00 ガイダンス

本講義の目指すところ (Course Objective)

The Guide to Financial Literacy (金融リテラシー入門) は、金融行動を通じたキャリア開発を目的とした教養科目の1つであり、これからの人生を賢く生きるために基礎的かつ重要な知識と実践力を修得するためのコースである。

本講義の第1のゴールは受講生各人が人生の様々な局面において、また日常生活のあちこちで金融的にスマートな意思決定をするためのフレームワークを構築することである。それは高価なものを買う場面であったり、キャリアを決定したりと様々な場合で役立つ金融的思考のフレームワークとも言える。また、第2のゴールはコミュニケーション力、分析力、マネジメント力をつけること。こうした実践力を鍛えるために、正しい金融的意思決定に必要な概念と基礎知識を講義形式で学習したのち、ディスカッションとケーススタディを中心に多くの講義時間を割く予定である。

金融リテラシー (Definition of Financial Literacy)

金融リテラシーとは、「金融に関する健全な意思決定を行い、究極的には金融面での個人の良い暮らし (Well-being) を達成するために必要な、金融に関する意識、知識、技術、態度及び行動の総体」¹とされている。それは、金融知識、金融態度、金融行動を含んだもので、積極的に自分の生活設計に取り組んでいくために必要な生活スキルの一つである。特に社会人経験のない学生にとって、金融リテラシーを学び身につけることは、将来の人生の価値を無限に高める機会となるだろう。

本講義は、英国金融庁や経済協力開発機構 (OECD) など国際的に広く認識されている金融リテラシーの基本要素である下記の5つを柱として構成されている。各項目から、受講生が形成できる能力についても着目して講義を進めていく。

1. 日々のお金の管理 (Day-to-day money management)
→ 計画的にお金を使ったり、貯めたりすることができるようになる
2. 計画的な資金管理 (Planning Ahead)
→ 生活設計 (ライフプランニング) を行い、中長期に必要な資金計画 (ファイナンシャル・プランニング) を立てることができるようになる

¹ OECD/INFE 『金融教育のための国家戦略に関するハイレベル原則』2012年6月。
なお「金融リテラシー」は、英米やカナダなどの先進国では、「金融ケイパビリティ」と言われています。

3. 金融に関わる基礎知識 (Financial Knowledge and Understanding)
→ 基本的な金融知識とその理解を学ぶことによって、意思決定ができるようになる
4. 貯蓄や投資に関わる金融商品の選択 (Choosing and managing financial products)
→ 金融に関わる合理的意思決定ができるようになる
5. 社会的責任 (Financial Responsibility)
→ 持続可能な社会に向けた責任ある金融上の意思決定ができるようになる

講義形式と内容 (Course Structure and Content)

金融行動を通じたキャリア開発としての本講義は、ユニークな学習形式【ケーススタディ形式】となっている。各回、課題として指定された教材に基づいてケーススタディと補足講義がある。的確な知識に基づいた交渉力、分析力、意思決定能力などの実践力を修得できるしくみになっており、学生の積極的な参加が求められる。二回目の講義の最初にグループ分け（4名程度）を行う。グループ分けは学部を超えてランダムに行い、グループは指定されたグループ席に着席するものとする。

本講義の教材については、必要な講義資料を逐次配布する形式をとる。なお、エクセルやインターネットを利用した情報検索を行うことがあるのでPCやスマホを講義中に使用する前提である。

履修要件、評価基準 (Course Requirements)

ディスカッション・授業中の発言などクラス貢献50%、グループまたは個人の提出課題50%で評価を行う。講義の中でグループワークを多く行うため、講義参加の基本はグループ単位で行う。

注意：この講義は学生参加型の協働学習の形態で行われる。授業後に課すホームワーク（要提出）、出席、ディスカッションへの積極的な参加ができない学生は単位の修得が困難となる。履修の判断の際は留意すること。

対象者 (Good candidates for the course)

本講義は、所属学部に関係なく、学ぶ意欲のある学生を対象としている。学部学生1, 2年生での受講をおすすめする。特に経済学の知識の有無は問わない。

講義スケジュール (Course Schedule)

講義日	講義	講義テーマ
月 日	第1講	ガイダンス・人生の選択 I
月 日	第2講	給与と税金・社会保険
月 日	第3講	クレジット・ローン
月 日	第4講	車の購入
月 日	第5講	海外旅行
月 日	第6講	病気・入院
月 日	第7講	交通事故
月 日	第8講	資産形成とキャリア
月 日	第9講	住宅購入
月 日	第10講	都会の暮らしと地方の暮らし
月 日	第11講	金融資産形成
月 日	第12講	リストラ・失業・セーフティネット
月 日	第13講	セカンドライフプランニング
月 日	第14講	人生の選択 II
月 日	第15講	持続可能性
月 日	第16講	試験 (or リポート)

ガイダンスと基本事項

金融教育の基本概念についてミニ事例を交えて学ぶ。講義全体のガイダンスの後に、金融リテラシーを高めていく上で重要な概念についてミニ事例を活用しながら、それら概念の重要性とどういった意味があるのかを明示する。これは次講義以降のケーススタディの準備段階でもある。

修得理論

- 情報の非対称性
- 機会費用
- リスクマネジメント
- リスクとリターン
- 時間価値
- キャッシュフロー
- 資産形成
- P B S (Planning Budgeting Saving)